

会議名	平成25年度（2013年度）第1回 産業活力創造会議		
日時	平成25年（2013年）11月11日（月） 午後6時半～8時半	場所	市役所3階 3-3会議室
出席者	委員	濱田恵三、高橋一夫、柏木千春、山野千枝、村上季実子、神尾友治、今里有利、矢野浩臣、阪上雅信、福永正夫、畑 薫、大石由里子（敬称略） 計12名	
	担当事務局	産業文化部長、産業振興室長、宝のまち創造室長、宝のまち創造担当課長、商工勤労課係員	
	関係課 関係機関	商工勤労課長、農政課長、観光企画課長 宝塚商工会議所事務局長、事務局職員 計5名	
会議の公開・非公開	公開	傍聴者	0名
内 容（概要）			
<p>1 開会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 委嘱辞令交付</p> <p>4 出席委員及び事務局、関係課ほか職員の紹介</p> <p>5 正副会長選出</p> <p>事務局：会長・副会長の選出をお願いしたい。産業活力創造会議規則第4条において、互選となっているが、意見はあるか。（事務局の考えを聞きたいとの声）</p> <p>事務局：考えを提示。本市の「モノ・コト・バ」宝塚ブランド懇話会委員長もされました濱田委員に会長を、本市観光集客戦略のワークショップ講師を務めていただきました高橋委員に副会長をお願いしたい。</p> <p style="text-align: center;">（異議なし）</p> <p>ここから会長に議事進行を進めていただく。</p> <p>6 議題</p> <p>（1）会議の成立及び傍聴要領の説明と会議の公開について</p> <p>委員12名中10名出席（2名遅刻）。産業活力創造会議規則第5条第2項の規定により過半数以上の出席により会議は成立。傍聴要領の説明及び本日会議の公開の説明。傍聴者はなし</p> <p>（2）会議の進め方について</p> <p>会議の進め方について会議の概要、協議事項ほか事務局から説明。</p> <p>会 長： 審議の進め方について、ご質問、ご意見、提案があれば願います。</p> <p>委 員： 会議を開く理由と、何を目標しているのか。時代が変化し、これまでの分を改めるのか。</p> <p>事務局： 産業全般に関し、以前から分野ごとの計画やビジョンづくりを行ってきた。例えば商業、工業、農業、観光などビジョン等をつくり、実行してきたが、行政でありがちな計画は作成したが実現しなかったという経過もある。平成18年から19年には、商工会議所と市が合同の会議を立ち上げ、宝塚市産業活性化推進会議検討結果報告書を作成し、具体的な取組みを盛り込んだ。その報告書を基に産業振興基本条例や工業の誘致に関する条例を制定した。これまではそれぞれ分野ごとに作成をしていたが、現在の産業</p>			

全体を見たときに相対的に右肩下がりになっており、少し元気がなくなってきたという危機感がある。分野別に分けるのではなく、宝塚の新たな魅力をつくることによって、分野を超え、ジャンルを超えた振興計画と具体的な取組みを検討していきたいと考えている。

委員： 産業全体の基本戦略をつくるということであるが、資料から個別分野の現状と課題についての報告、市の総合計画においても分野ごとに記されているが、こうした資料からどのように産業全体の基本戦略を検討するのか。本来ならば、分野別現状と課題を把握したうえで、ひとつひとつの我々の目指すべき目標をそれぞれ分野ごとに、現在のトレンドから考えると何が必要なのか、ということが出てくるはずである。その現状からその目標に向けて動かしていくために何をするのか？ということ「戦略」という呼びかけが現在では多くなっていると思う。産業全体で、ということになった場合は、産業の何を現状として把握して、どういう方向性で目標をもたれるのか、これらの資料からどのように導いていこうとされるのか聞きたい。

事務局： ご指摘のように今回の資料はそれぞれ分野ごとの資料となっている。それぞれの産業の課題を抱えているのも事実であり、それぞれの産業の中でポイントをおさえておかなければならない点については、この会議においてもおさえておきたい。それとともに、宝塚のまちの成り立ち、これまでのまちの歩みなどを考えたときにトレンドがあると思うので、「観光」というのがこのまちにとって大きな要素であると考えている。今後も観光のまちであるかどうか、検討する余地はあるが、ある程度全体で「観光」というくくりの中でそれぞれの産業が連携していけないかどうか、その中で魅力的なしくみをつくることできないかを考えている。

委員： 例えば、雇用や税収目標をどうするのか、といったマクロ的に決めて分野ごとに落とししていくということではないとするならば現状と課題から何をめざすのか。雇用や税収の数値目標をおきながら進めていくのか。例えば分野ごとに見ていくと農業であればこうだ、観光であればこうだといった落としどころの議論になるのかと思うが。スケジュールにある基本戦略というのは、各産業の現状や課題を知ったうえで産業振興に関するトレンドを確認することになっているが、トレンドを確認したとしても基本戦略までには至らないのではないか。我々は何を産業全体の目標を置くのか。あるいは、それぞれ商業、工業、観光、農業の立場で見識をお持ちの委員が集って議論されると思うので、そうした議論を通じて最終的に目標となるような共通化できるかどうか、ということが産業全般ということなのかと考えるが、そうだとすると、スケジュールの策定の順番が違えば、各項目議論があつて、そのうわづみとして雇用をどうするのか、税収の何をめざすのか、ということになってくる。先に雇用などを決めたら、今後各分野に落とすということになると、提出いただく資料の種類が違うのではないかと。

会長： 今年度は方向性とか将来像とか基本戦略の検討というのがあつたと思うが、そのあたり説明をお願いします。

事務局： 雇用と税収目標を設定しそれに向けてということではなく、まちの活性化やにぎわいづくりなど、産業としてさらなる成長に向けた大きな項目を設定して、柱となる部分を立ち上げていき、それに向けた方向性や具体的な取組みを議論していただきたいと考えている。産業の現状や課題の資料も配布しているが、これは状況把握という認識で理解

いただければと思う。

委員： テーマ別に目標をつくっていき、それに向かって共有化するという作業が今年度にあるということなのか。にぎわいをつくるとか産業振興に関するトレンドの確認ということになるのか。個別テーマごとの現状からあるべき姿をつくりあげて、そこへ向けて具体的な議論を重ねても問題はないのかと思う。

会長： 基本戦略を今年度行うということであれば、まずいろんな産業のニーズなどをベースにして今年度は基本戦略づくり、来年度は具体的なアクションプランをつくるという整理なのか。整理をしておきたいと思う。

委員： 今回の我々のミッションは何か。戦略を決めるということであればありたい姿というのが最初になければならない。ありたい姿を決めるのは委員会が決めるものか。ありたい姿とうのは、宝塚市がこうありたいということだと思うので、市民全体が考えるべきだと思う。我々は市長から付託を受けているので、市長からありたい姿について一言あるべきではないか。そのうえで達成するためにそれぞれ各分野から考えて、ベストなチョイスを選択し、話し合っていけばいいのではないかと思う。

会長： この会議はトップダウンではなく、ボトムアップで委員の意見を集約したものをまとめあげて進めていくものではないかと思うが。

事務局： 市長も含めて部としては、都市間競争など言われている中で市が取り残されることにならないよう新たな機軸を打ち出し、元気なまちにしていきたいと考えている。今まで分野ごとにビジョンを作成してきたが、実現ができない、あるいは不発に終わるといったことがあった。今回は、将来を担う中堅若手の実践者を中心いろいろな意見やあらたな発想をいただきながら、まとめていきたいと考えている。

委員： 具体的プランを決めたとして、市長へ実現できるような働きかけをしても途中でできなかったとか、また、第5次総合計画にある「市民の力が輝く、共生のまち宝塚」これに沿った形で進めていかないといけないのか。

事務局： 会議の主旨として、産業の面が本市は弱いと市民、議会からも指定を受けた経緯がある。産業に係る予算でもあまりお金をかけてこなかった結果、元気がないんじゃないかという声もある。市長の意向もありここからだされるアウトプットは最大限尊重して取組んでいきたいと考えている。

委員： 例えば「共生」がないとダメとか、遠まわしに「共生」があれば良しとか、ということになるのか。

事務局： 第5次総合計画を上位計画としながら進めていくが、共生でないと進めていけないとか、共生ではないからダメということではない。

委員： アウトプットのイメージを具体的にしてから議論を進めていけばいいのではないか。平成18年度宝塚市産業活性化推進会議検討結果報告書中に具体的なアクションプランをいろいろなテーマで作成したものがあるので、実現性も含めて整理したほうが良いように思う。

今後の話をするために我々は集まっているのか、それとも具体的なアクションプランをひとつひとつ決めていくために集まっているのか。

会長： 両方関わってくるのではないか。

委員： そういうことならば、もっとビジョンを整理するということか。

会長： 今年度についてはそうである。

委員： それであれば、資料6にあるスケジュールの2回目以降基本戦略の方向性や検討など

について、観光、農業、商業、工業とそれぞれ方向性や基本戦略が出せて議論できるのかどうか。

会 長： 大枠の方向性を議論するということなのか。

事務局： 25年度は基本戦略、26年度は基本戦略に基づく具体的な計画としており、全体の大枠の方向性として25年度基本戦略を固めていきたいと考えている。

会 長： 今年度は大枠の基本戦略を固めて、より具体的なアクションプランを検討していこうということでもいいか。

事務局： そのとおりである。

委 員： ということは、我々は分野ごとの現状と課題を把握したうえで、それぞれ分野ごとのあるべき姿、各委員が専門分野からこうあるべきでというような提示をし、そこに向かっての戦略としての大枠を提案できるようにしていく。戦略というのは、現状と課題が確認できるとあるべき姿があって、そこに向かっていくには観光なら2本や3本の戦略の柱として立てなければならない。その柱が提示されるということが今年度目標であり、議論するものだとして理解すればいいのか。ここでいう戦略はどのような使われ方をしているのか。

事務局： 言われたとおりで、目指すべきものがあるところに向けてどういう手段をとっていくか、その柱が戦略であるという解釈である。

委 員： となれば、それぞれ専門分野からご提案をしていただくような形で話を進めてはどうか。例えば商業の課題については商業統計も含めてさまざまな統計データからさまざまなことが読み取れる。以前は大規模店舗があるから商店街は生きてこないといったことよりも、跡取りがいない、リニューアルしようにも跡取りがいないため投資ができないといったことが読み取れるので、現状を確認したうえで、宝塚にどのようなものをつくりあげていくほうがいいのか。それが今までの委員の知見から出てくるとすれば、そこに向けて具体的に何をすべきかということを経験ごとに提示して、議論していく方が有意義ではないかと考える。このやり方だと方向性など個別ごとに2時間の中でやりきってしまうといけないことが可能なのかどうか。

会 長： 今年度は4回の開催になっているが、ただ、事務局提案の観光を基軸にして、他の農工商を考えていく、というお話があったと思うが、従来の商業の活性化の視点とも若干違って、いろんな視点や要素を入れて、うまくリンクさせないと、より具体的な戦略にも届きにくいのではないか。

事務局： まちづくりに関して皆さんもお考えがあると思うので、何か一つの共通の目標に向かってそれぞれの産業が集約していき、まとめていけばいいかと考えている。

会 長： 今の議論は、次の現状と課題につながってくるので、こちらの説明が済んでから整理するという形で説明を願う。

(2) 現状と課題について

事務局： 資料7の現状と課題について事務局から説明。

会 長： 各専門の方がいますので少なくとも産業の現状と課題というところから、さまざまな視点や意見があると思う。特にここだけはこのところがあればお願いしたい。

委 員： 中心市街地の説明で商業活性化のソフト事業（14事業）を実施中とのことであるが具体的には。

事務局： 大学生とのコラボのイベントや地域の方とのコラボ事業が主である。

会 長： その他まちあるきやバルとかも入っているのか。

事務局： 入っている。

委員： 資料の中心市街地の駅前商業施設というのは具体的にどういうところをさすのか。

事務局： 図面の網掛け部分で逆瀬川、宝塚南口、宝塚である。

委員： 宿泊施設の稼働率はどのような状況かなのか。長く市内に滞在してもらえるのか、といった争点になったときに、宿泊施設はまだまだ空いている状況なのか。逆にいっぱい泊まれる状況ではないのか。

事務局： 市内山間部にある温泉旅館は除き、市内では3つの施設があるが、常に満杯といった状況ではない。確認はしておく。

委員： 確認するのであれば、月別で確認したほうが良いと思う。季節性がはっきり見えてくるので。

事務局： わかりました。

委員： 観光の資料でまちの中や暮らしの中の小さな文化を見つけ出して連携とあるが、歌劇を再認識してとも記されており、他に意見は出てこなかったのか。

事務局： 観光については歌劇が代名詞となっている。市内は歌劇だけでなく、観光施設や訪れてみたいところがあるが、歌劇との結びつきや連携がない。歌劇があるまちといった認識から、まちなみの中に名産があるとか、手塚治虫記念館でのイベントも重ねていくことによって何とか観光客を引っ張れないかということである。

委員： 歌劇と連携して取組むという意見や発想ではないのか。

事務局： 歌劇以外で、長い時間滞在できるように取組んでいるところである。内容的には連携して取組みたいと考えている。

委員： データに関して、後継者問題について今後のどのようなアクションプランを作成するにしても、関わる人たちの動機付けを喚起していかなければ成果も出てこない。根深くあるのは後継者問題だと思う。市の中で後継者問題に関するデータがあるのかどうか、用意いただきたい。

会長： 最近の調査などで後継者問題データあるのか。

事務局： 商工業実態調査の中にあるか確認する。

委員： いろんなところでいつも言われるのが後継者問題である。例えば商店街の中となると、後継者は関係なく、商店街自体が発展しているかどうかである。

時代によって売れるものの内容が変わってくるので、その店がなくなっても、その商店街が発展していたら違う業種が入ってくる。根本はその地域がどう発展しているかが問題である。いかに地域を魅力ある場所にするか。魅力ある場所にするには伊勢のおかげ横丁のような滞在時間を長くするなど、まち全体で工夫をしていかないと、単発を積み上げていくのはなかなか難しい。テーマをしぼり日々そのテーマに関連したイベントをしているようなまち、ワクワクするようなまちにしないとおもしろくないのではないのか。

委員： 宝塚の商業に関する方向性というのが、今まで駅間競争をずっとやってきたのかと。そのときはうまくいっていたのかもしれないが、今は人が減り、競争のあまり、宝塚は衰退してしまっていると感じる。各駅ごとに商業施設はあるが、売上はおそらく下がっていると思われる。そのあたりのデータというのは市で把握しているのか。例えば中でも頑張っているところが上がっていて、他が下がっているとか、全体的に下がってしまっているのか。そのあたりはどうなのか。

会長： 実態としてつかんでいるのかどうか。

事務局： ソリオ宝塚では、売上の推移は落ちてきているので、リニューアルをしなければということで検討委員会をしている。その中で売上は出ているが、内部資料により公開はしていない。

委員： ソリオ以外にも駅周辺商業施設として、傾向はどのような感じか。

事務局： 宝塚市内で一番空き店舗がなく営業しているのはソリオぐらいであるが、西宮や伊丹の駅前にショッピングモールができてから、売上が落ちているというのが現状である。

委員： 上がっているところはないということなのか。

事務局： 大規模のお店、例えば宝塚阪急とか、維持している店舗もあれば上がっているところもある。

会 長： データがあればお願いします。

委 員： 農業に関しても、まさしく後継者問題である。平成22年の資料があるが平成25年もずっと右肩下がりの傾向にある。都市間では状況は厳しくなるばかりである。我々がどう現状を把握し、連携をするか、金が動かないと産業は動かないと思うので、いかにこの意見の集約をしたものが市としてバックアップとして我々に返ってきてくれるのか、問題点や現状を個々がしている努力なども含めて、どんどん意見を言ったほうが良いと思う。そうすると宝塚市が全体を見渡したときに産業の分野それぞれのここにはこの施策、こういうバックアップ、イベントなど行って初めて生きてくるのかなと思う。そういう意見を出していけたらと思う。

委 員： 農業はやはり後継者問題である。商業でも農業でも儲かっている状態であれば、後継者は自然とついてくると思う。西谷地域はいろんなところへ生産物を持っていけるという状況で、若い人がよそから入ってきて農業したいという人も増え、少しではあるが活性化している。新名神のスマートインターチェンジ開通に伴い、どのような方法で人が西谷へ来ていただけるか、また市内へも流動させるような仕組みが必要である。市内は、昔に比べると人が少なく、賑わいがなくなったという感じである。宝塚にお客が来にくくなっていないか。だから元気がないのでは。宝塚をもう一度見直して盛り上げていきたいという市長の思いから、いかにみんなで宝塚をどうやって再生していくか。それを話し合っていくのがこの会議の目標ではないかなと思う。それぞれの分野でさまざまな問題をどうやって解決するのか。人が集まって、活性化していくかを話し合っていきたいと考えている。

委 員： 観光については、宿泊施設は武田尾温泉を除くと市内3カ所しかなく、宿泊を伸ばそうとしても総対数が圧倒的に少ないと思うので、長期滞在していただくための宿泊は、難しいのではないかなと思う。その中で観光客をどう増やしていくか、いろんな団体がいろんなイベントをやっているが、それが個々に情報発信を行っている状況なので、各団体が行っているイベント共有して、それを情報発信できるような仕組みは必要ではないかと。あと国際観光都市という名前はついているが実態はあまりないので、せめて案内所なり、来た人へのおもてなしができるような仕組みも作る必要があると思う。また、資料から観光客入込数からあいあいパークの数が多いように思うが。

委 員： 1日3,000人入っている。4年前にパン屋のテナントが入った関係でそこに来るお客の人数もカウントに入っており、かなり影響が出ている。実際にあいあいパークの来る純粋な人数ではなく、テナントの来客も含んでいる。ご理解いただければと思う。

会 長： 予定時刻を過ぎました。まだまだ議論していかなければならない点があり、宿題もある中で、十分な意見も言えていないという方もいるので、次回までに意見があれば、事務局へお願いします。

7 その他

事務局： 本日お答えできなかったこと、事務局として詰めきれていない点もある。次回、資料関係のほか、進め方についてご意見をいただければと思う。よろしくお願いします

会 長： ありがとうございます。

8 閉会